

## 周産期母子医療センター（新生児部門）

### 1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は対応可能な疾患である限り断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、2015年は地域で周産期医療に携わる医師、助産師などを対象に、計10回の新生児蘇生法講習会を開催した。さらにセンター長（新生児部門）の小山典久は愛知県周産期医療協議会副会長として、県の周産期医療体制整備や計画立案にも参画した。厚生労働省は出生1,000人に対して2.5から3床のNICUが必要と公表している。これを受け愛知県では平成27年度末までに県内のNICUを180床以上（210床程度まで）に増床する整備計画を立てていたが未達成である。東三河に必要なNICUは15-18床と試算されており、今後の整備が期待される。

（センター長 小山 典久）